

談話室

日本表面科学会 10 周年記念
表面科学国際シンポジウム。
第 9 回表面科学講演大会

岩 澤 康 裕

東京大学理学部 〒113 東京都文京区本郷 7-3-1

(1990 年 1 月 23 日 受理)

The International Symposium and the 9th
Conference on Surface Science for
the Commemoration of the 10th
Anniversary of the Surface
Science Society of Japan

Yasuhiro IWASAWA

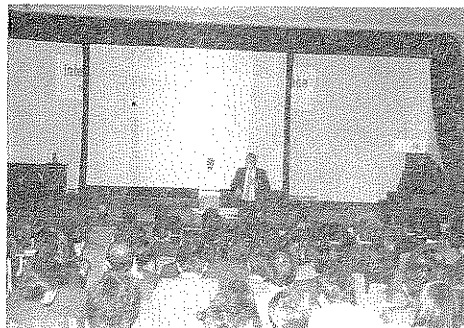
Faculty of Science, The University of Tokyo
Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113

(Received January 23, 1990)

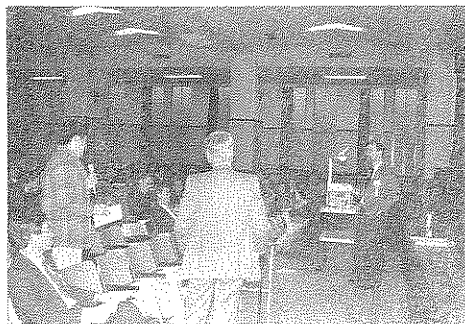
表面科学会 10 周年を記念して、第 9 回表面科学講演大会および表面科学国際シンポジウムが平成元年 11 月 27 日～30 日の 4 日間、早稲田大学(大隈小講堂、小野記念講堂)において開催された。講演大会とシンポジウム参加者は、招待講演者 11 名(海外 8 名、国内 3 名)を含め約 600 名にのぼり、極めて盛況な会となった。また、同大学校友会館において 10 周年記念式典が催され、100 名以上の参加者を得て学会の 10 周年を祝うにふさわしい盛況な会となった。

第 9 回表面科学講演大会は、27 日～29 日午前の 2 日半、大隈小講堂と小野記念講堂の 2 会場において行われた。今回は表面分析・評価、薄膜、表面物理、表面化学、表面処理、新材料の表面、微粒子、高分子の表面、表面機械効果の 9 セッションのもと、95 件の講演につき多くの討論がなされたが、講演件数は年毎に増え、表面科学領域の活発な研究と時代の要請を反映している。

表面科学国際シンポジウムは、講演大会に引き続き、9 日午後～30 日に大隈小講堂で開催され、“New Developments and Trends in Surface Science”の主題のもとに 11 の招待講演が行われた。招待講演者は海外から C. J. Powell (National Institute of Standards and Technology), T. J. Shaffner (Texas Instruments, Inc.), B. A. Joyce (Imperial College), E. W. Plummer (Univ. Pennsylvania), M. A. Van Hove (Lawrence Berkeley



表面科学国際シンポジウム (講演者 Prof. Yates)



国際シンポジウムでの討論 (講演者 Prof. Plummer)

Laboratory), D. A. King (Univ. Cambridge), J. T. Yates, Jr. (Univ. Pittsburgh), および E. Bauer (Phys. Inst. Tech. Univ. Clausthal), 国内から小野雅敏(電総研)、大西孝治(東工大資源研)および黒田晴雄(東大理)の各氏であった。大きな国際会議でもこれだけの著名な研究者が一堂に揃うことはほとんどなく、講演と討論を通じて世界の先端的表面研究に触れることができたことは参加者にとり非常に有意義であったとの声が多く聞かれた。このことは招待講演者側においても同じであり、これだけの一線の研究者の講演を互いに聞く機会が得られてとても嬉しいと感謝されたほどである。

国際シンポジウム初日の午後 6 時からは記念式典(実行委員長:福田安生(静岡大))が、表面科学会の歴代会長、関連学協会からの来賓、上記招待講演者(シンポジウムのバンケットを兼ねた為、また、海外招待者 4 名が夫人同伴)の皆様方をお招きして盛大に行われた。なお表面科学会第 1 回論文賞発表と表彰(受賞論文:“高温超電導薄膜の合成と物性”, 著者:廣地久美子, 市川洋, 足立秀明, 瀬恒謙太郎, 和佐清孝(松下電器(株)中央研究所))も行われ、式典に花を添えた。式典には多数の参加者があり、交流、親睦、あるいは討論に話が弾



日本表面科学会創立10周年記念式典(新居会長挨拶)。



記念式典懇親会風景。

み時間の経つのも忘れるほど楽しい一時を過ごした。

今回の国際シンポジウムは表面科学会10周年記念事業の目玉として計画され、表面科学会がカバーする広い研究領域を反映して招待講演者が選ばれた。非常に多く

の参加者を得たことから分かるように、シンポジウムは成功に終わった。この成功の裏には多くの諸先生方や会員各位の御援助と御協力があった。特に、シンポジウム会場については早稲田大学の大坂、大島両先生に多大な御尽力を頂いた。また、50を超える企業には快く団体参加登録に御協力頂いた。この場を借りて深く謝意を申し上げたい。

表面科学国際シンポジウムおよび第9回表面科学講演大会の実際の運営は以下の組織委員会メンバーによって行われた。予想以上の成果を挙げ無事に終えることができ、組織委員の皆様方に感謝申し上げます。

新居(会長、金材研)、坂田(財務委員長、慶大理工)、岩澤(実行委員長、東大理)、上村(副委員長、無機材研)、有賀(東大理)、榎本(機械技研)、大坂(早大理工)、大島(早大理工)、大坪(新日鉄)、岡田(広島大)、河津(東大工)、難波(農工大工)、平木(阪大工)、福田(記念式典委員長、静大電研)、真下(東芝総研)、吉原(金材研)。(敬称略)

10周年記念事業が成功のうちに終わり、日本表面科学会はややうやくその揺籃期に区切りをつけ、新たな一步を踏み出した。次の10年は21世紀へのチャレンジであり、表面・界面での現象の把握、理解の重要性は一段と増加している。このような状況で当学会に寄せられる期待は大きく、講演大会の果たすべき役割は、益々高まっている。開催時期、参加登録料等に対するご意見共々、会員の皆様方の積極的な御参加と御協力をお願いする次第です。

第11巻 第4号 特集“有機薄膜”予告

1990年5月10日発行予定

巻頭言 第4回 Langmuir-Blodgett 膜国際会議を終えて

福田清成(埼玉大理)

解説

1. LB膜研究の現状と問題点

雀部博之(理研)

2. L膜の巨視的な構造(表面波によるL膜の表面圧分布測定)

宮野健次郎(東大工)

3. 単分子膜の動的性質の評価

加藤貞二(宇都宮大工)

4. LB膜製膜過程の解析

源間信弘, 東 実(東芝総研)

5. LB膜の面内・面間構造の評価

井上, 八瀬, 岡田(正)(広島大生)

岡田(修), 松田, 中西(畿高研), 加藤(東理大)

6. 高分子LB膜の作成と評価

重原淳孝, 山田 瑛(理研)

7. LB膜のMIM特性

江口 健, 瀧本 清, 酒井邦裕, 中桐孝志(キャノン中研)

ポピュラーサイエンス

スキンケアと界面化学

鈴木敏幸(花王(株)東京研)

用語解説“有機薄膜の評価法”